

# 科目「ビジネス経済」における効果的な指導方法について

## －実践的な体験型授業を取り入れた金融経済教育を中心として－

千葉県立〇〇〇〇高等学校 〇〇〇〇（商業）

### 1 はじめに

世の中には、お年寄りや学生、若い人たちの中で、お金で損をする人、大きなリスクを抱えてしまう人や失敗をする人が数多くいる。

必ず儲かる、あるいは絶対に損はしないなどといった怪しい投資話や、悪質商法や多重債務問題など、しっかり考えれば、明らかにおかしな話だとわかる金融詐欺に騙され、知らない間に非常に大きなリスクを抱えてしまい大きな損失を出してしまう。

その理由の一つがお金について、つまり金融の事についてあまりにも無知であったためではないか。社会に出る前に知っておかなければならない金融に関する最低限度の知識や、それ以前に知らなければならない当然の知識でさえ、ほとんど学習する機会が無いからである。つまり、お金に関する基礎的・基本的な知識がほとんど得られないまま社会生活を始めなければならないことが現実なのである。

このような状況がこれ以上続かないようにするためには、社会人になる前に金融の基礎・基本を知る機会を提供することが非常に有効になる。また、様々な金融商品や保険商品、投資商品の適切な選択方法や利用の方法についての知識の習得なども必要になってくる。そこで私は、教科「商業」における金融経済教育について考察・研究していくこととした。

平成 25 年度から実施されている学習指導要領において、商業の目標は次のとおりである。

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。
---

また、この目標の要点として、「職業人としての倫理観や遵法精神、起業家精神などを身に付け、経済の国際化やサービス化の進展、情報通信技術の進歩、知識基盤社会の到来など、経済社会を取り巻く環境の変化に適切に対応してビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する」とある。これら教科の目標や要点から今回新設された科目「ビジネス経済」、その学習内容から特に「金融経済教育」を中心として研究・実践する。

### 2 研究概要

#### (1) 研究方法

現在、教科「商業」の授業においては各種資格を取得させることにより、学習に対する意欲の向上を図ることが多い。しかし、商業の学習が目指すものは、資格を取得することだけに留まらず、学習指導要領の内容を踏まえ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育てることである。商業を学ぶ生徒の多くは、将来は何らかの経営組織の一員としてビジネスの諸活動に参加することになることから、商業の学習においてはビジネスの諸活動に目を向けさせる必要が大いにある。そのために

は、経済社会とのかかわりの中で、生徒自ら考察させることを通して理解させるとともに、新聞や放送、インターネットの活用を図る必要がある。また、基礎的、基本的な知識や技術の習得に留まらず、自ら課題を見つけ、解決するために必要な思考力、判断力や表現力などを身に付け、商業の学習とビジネスの諸活動とを結び付けることで、ビジネスに興味や関心をもたせ、学習活動を充実させる必要もある。

そこで、本研究では、単に難しい経済用語の暗記に終始することなく、経済社会の動きをしっかりと理解できることを目指し、新聞やインターネット、外部諸団体などの教育資源の積極的な活用、さらには学習した知識や技能は、日々の暮らしに役立つことが多いため、生徒の学習意欲や学習効果を高められる授業展開についても考察したいと考える。

## (2) 研究内容

授業を通して次の要点を中心に研究していくこととする。

ア 金融経済の学習に活用する能力について、また具体的なビジネスの諸活動と結び付いた知識と技術を習得させる。また学習を通して修得した知識・技術は、現代のビジネスの多くの場面に関連しており、日々の生活や様々な職業と深く関連していることを理解させる。

イ 金融経済の学習活動全体を通して、関連するビジネスの諸活動に目を向けさせる。外部の様々な団体や関連する業界などの社会人講師などを活用した授業や、近隣の小学校との連携授業などについて積極的に取り組む授業展開を実施する。

ウ ビジネスの諸活動について生徒自らが主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行う授業展開を考察する。例えば、少人数グループによる学習内容に関連したテーマについての調査や研究などの活動を効果的に実施する。

エ 経済社会の発展に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育成する。実際のビジネスに即した体験的学習を充実させる授業展開を実施する。現代の経済社会とのかかわりの中で、生徒自ら考察させ、新聞各紙や視聴覚教材、インターネットなどの活用を積極的に図る。学習内容の暗記に留まることなく、上記のそれぞれの内容との関連性を持たせ、より実践的に指導するとともに、社会生活と密接に関連していることを確認しながら指導を行う。学習内容の中には、生徒にとって身近に感じるができない部分も多いと思われるので、より効果的な指導方法について分析や研究を行う。

## 3 金融経済教育について

### (1) 金融経済教育と消費者教育について

金融経済教育とは、金融経済に関する幅広い学習を通じて、「生きる力」を育む教育である。金融広報中央委員会では、金融経済教育について、「お金や金融の様々なはたらきを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育」と示している。また、具体的な4つの分野として、生活設計・家計管理（金銭管理）に関する分野、経済や金融の仕組みに関する分野、消費生活・金銭トラブル防止に関する分野、キャリア教育に関する分野が挙げられる。社会とのかかわりの中で、自分の物やお金に対する価値観やその管理に関して、特に、生活の中でお金とのかかわりを学習し、将来のライフプランや、ファイナンシャルプランに役立てる必要がある。また、様々な悪質商法や多重債務の問題からトラブルに合

わない方法や、その対処に関する学習の必要性や、関連する金融商品の選択、利用方法に関する学習の必要性、消費する立場だけでなく、それらを提供する立場などから、経済や金融の仕組みや役割を理解し、考え行動することができる知識や技術を学習することなどが挙げられる。

一方、消費者教育は自立した消費者、行動する消費者の育成を目的に消費生活の幅広い分野を対象として含んでいる。金融経済教育も個々人の主体的な選択力、行動力の養成を目的としているため消費者教育とは深く関係しており、その学習内容は、多くの部分で密接に関係している。金融経済教育は消費者教育の中で特にお金に関連する内容に重点を置いており、近年消費者問題の中で大きな関心を集めている金融トラブルや多重債務の問題については金融経済教育が取り組むべき現代的課題として大きく関連している。

## (2) 金融経済教育の必要性について

高度に発達した市場経済の現代では、生活に必要なそのほとんどが商品として提供され、私たち消費者はそれらを購入して生活をしている。様々に提供される商品は高度化、複雑化しており、商品の質を見極めて購入するには、消費者が多くの情報を集めて判断する能力を必要とする。さらには販売方法も店舗販売以外に、通信販売やインターネットなど様々であり非常に多様化、複雑化し、支払い方法も現金以外の方法として割賦販売やクレジットなど多様化している。このような高度に複雑化している社会生活の中で、様々な消費者被害が拡大しており、消費者に対する金融経済教育の重要性は非常に高まっている。

こうした高度に多様化した時代だからこそ、自主的かつ合理的に行動するとともに、消費者の権利や義務を行使し、避けなければならない消費者被害が起こらないよう社会に働きかけ変えていく自立した消費者、生活者を育成することが大いに求められている。

また、金融経済教育の考え方として、金融リテラシー教育がある。金融リテラシーとは、お金やお金の流れなどに関する知識や判断力の事である。お金との上手な付き合い方を知ることによって、自分自身のライフプランを豊かにすることができる。金融リテラシーでは、最低限知っておきたい4分野、15項目に分類されている。それらは主に、基本的な金融知識をはじめ、適切な家計管理、明確な生活設計、金融と経済の基礎知識と自分に合った金融商品を選択するスキル、外部における知見の適切な活用である。このような考え方からも、その必要性は高まっている。

## 4 高等学校における金融経済教育について

### (1) 教科・科目における考え方

高等学校では、いくつかの教科・科目で金融経済教育が展開されている。

ア 公民科の科目である「現代社会」、「政治・経済」の学習指導要領の内容から、科目の目標についてその一部を示す。

#### 第1 現代社会

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて（略）現代社会の基本的な問題について（略）必要な能力と態度を育てる。

#### 第3 政治・経済

広い視野に立って（略）経済、国際関係などについて（略）必要な能力と態度を育てる。

次に、各学科に共通する教科家庭における「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活デザイン」、専門学科家庭における科目「消費生活」において、科目の目標についてその一部を示す。

#### 各学科に共通する科目

##### 第1 家庭基礎

人の一生と家族・家庭（略）消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ（略）実践的な態度を育てる。

##### 第2 家庭総合

人の一生と家族・家庭（略）消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ（略）実践的な態度を育てる。

##### 第3 生活デザイン

人の一生と家族・家庭（略）消費生活，衣食住などに関する知識と技術を体験的に習得させ（略）実践的な態度を育てる。

#### 主として専門学科において開設される科目

##### 第4 消費生活

経済社会の変化と消費生活，消費者の権利と責任，消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を習得させ（略）消費者の支援に必要な能力と態度を育てる。

金融経済教育に関係している教科は、商業を除くと、公民科、家庭科がその中心になっている。公民科の科目においては、「現代社会」や「経済」というキーワードが挙げられている様に、マクロ経済理論の視点から金融や経済の理論的な知識の習得に関する学習を行う。

家庭科の科目では「消費生活」や「消費者」というキーワードが挙げられていることから、ミクロ経済的な視点から主に金融に関する生活上に必要な具体的な問題や実践上の問題を考える学習を実践することにより、生徒は主に消費者や生活者を視点とした高等学校卒業後に必要な金融に関する一般的な基礎的・基本的な知識を習得できると考えられる。

## (2) 学習指導の留意点

金融経済について学習するのに適切な時期は、幼稚園から高等学校、更には上級学校と、その発達段階に応じた早期からの教育が望まれ、それら継続的、連続性のある学習機会が重要になってくる。小学校や中学校で学習した基礎・基本をベースとして高等学校の段階において、より高度な専門知識を理解する能力が身に付くとともに、実社会の中で様々な体験の機会も増えることから、社会の幅広い知識の吸収や時事問題などに取り組むことができ、自分自身の具体的な進路に関係する職業や生活設計、生活技術などを身に付ける学習が必要となる。

そのため、高等学校における教育課程全体を見通す金融経済教育の進め方を検討しなければならない。教科や科目、学年などの各担当者と横断的に連携を図りながら、どのような順序で学ばばより効果的な学習が展開できるか検討することが重要になってくる。とりわけ高等学校においては教科・科目の配当学年も多様であるため、こうした点に留意して金融経済教育を進めていくことがより大切となる。

### (3) 各教科・科目の指導計画例

高等学校における金融経済教育の指導計画例をいくつか紹介する。高等学校においても、公民科、家庭科の各科目はもちろんであるが、特別活動、総合的な学習の時間をはじめ、多くの場面や行事などで金融経済教育の指導が可能である。金融広報中央委員会の金融教育プログラムには各教科などにおける単元の指導計画例、評価規準、特徴的な授業の内容が示されている。このような学習指導事例、ワークシートなどの教材の利用を積極的に採り入れることにより合理的、効果的な学習指導になるのではないかと考える。以下、示されている内容からその一例を紹介する。

現代社会の指導計画例では、車の購入時の選択の観点、自動車産業のしくみなど、個人の立場とマクロ的な観点の双方から、高校生が関心をもちやすい自動車を教材として経済を学ばせる例がある。政治・経済の指導計画例では、金融政策のシミュレーション学習の指導例が挙げられる。ここでは、分かり難いといわれる金融政策について、現実に則した正しい理解を導くためにシミュレーションを交えた参加型のグループ学習の手法などが挙げられる。

家庭科の指導計画例は、お金を通して自立した社会人や消費者として必要な知識や意思決定力を身につけさせることを目指し、多重債務問題や悪質商法の問題、ローンの利用上の注意点、生活設計を取り上げ、副教材を有効に活用する展開が挙げられる。

また、総合的な学習の時間の指導計画例では、おサイフケータイとコンビニから、これからの経済・消費生活の探究、情報社会の身近な金融と消費者の自立などが効果的・効率的に学習できるプログラムが用意されている。

こうした取組は、生徒の生活技術の向上に資するだけでなく、経済的な問題への興味や関心を高める上でも非常に効果的な取組といえる。

## 5 商業における金融経済教育について

### (1) 商業の学習分野

商業における学習分野は、大きく分けて4つに分類されている。マーケティング分野、ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野である。金融経済教育に関する学習は、多岐にわたっており、ビジネス経済分野以外の科目においても、いくつか学習することとなっている。ここではその一つである「ビジネス基礎」について紹介する。この科目は原則履修科目であり、商業の学習に関する基礎的・基本的な内容で構成され、より専門的な学習の動機付けや卒業後の進路について生徒の意識を高めることが目的であることから、金融経済教育に関係する学習内容についても重要であると認識できる。

教科の基礎的な科目である「ビジネス基礎」では、特に金融経済に関する学習内容について、経済と流通の基礎として記載されている。経済主体や経済活動の循環などについて、経済活動における生産から消費に至る役割分担、流通や小売業の業種について、ビジネスの担い手の役割などが主な内容である。

ビジネス基礎以外の科目にも、いくつかの分野、科目において金融経済教育が取り入れられているが、それら分野の中でも特に、ビジネス経済分野について考えてみたいと思う。

## (2) ビジネス経済分野について

ビジネス経済分野における教育内容の改善点について次のように示されている。

ビジネス経済分野に関する内容については、経済に関する基礎的な理論を基に、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考察する能力と態度を育てる観点から「ビジネス経済」を新設した。

従前の「国際ビジネス」は、経済に関する知識を応用して地域産業の振興に貢献するなど、サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる観点から内容を改善し、科目の名称を「ビジネス経済応用」に変更した。

「経済活動と法」は、ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得させる観点から、金融取引や企業再編に関する内容を取り入れるとともに、家族と法に関する内容を削除するなどの改善を図った。

この分野は、「ビジネス経済」、「ビジネス経済応用」、「経済活動と法」の3つの科目によって構成されている。「ビジネス経済」において、経済社会の動向に着目させ、ビジネスに必要な基礎的な知識を習得し、「ビジネス経済応用」において、我が国の経済を通して世界経済の動向の理解、地域産業の振興の寄与、適切な企業活動の在り方や知識を習得し、「経済活動と法」においてビジネス活動に必要な法規に関する基礎的な知識を習得する学習内容になっている。

## (3) 科目「ビジネス経済」について

この科目は、金融経済に関する基礎・基本を学習する科目であり、その発展科目として「ビジネス経済応用」がある。学習の内容は、需要や供給などのミクロ経済理論及び景気循環や経済政策などのマクロ経済理論の基礎的な内容で構成されている。

この科目の学習内容は、「市場と経済」において家計・企業・政府の経済の三主体について、市場の在り方、果たす役割について考察することである。「需要と供給」、「価格決定と市場の役割」においてミクロ経済学として市場を構成する消費者や企業に注目してそれらの動きや市場の仕組みについて考える。「経済成長と景気循環」、「経済政策」においてマクロ経済学として国の豊かさや、政府の役割について、経済社会全体の動きについて考えるという5項目で構成しており、2～4単位程度履修されることを想定して、内容が構成されている。また、内容の構成及び取扱いに当たっての留意事項は次のように示されている。

### (内容の構成及び取扱い)

指導に当たっては、各種メディア教材などを活用し、経済社会の動向に着目させるとともに、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考えさせること。

この科目の指導に当たっては、経済事象を主体的に考察できるようにすることが大切である。このため、学習の実施場所や、学習の実施方法、新聞、放送、インターネットなどの様々な教材の利用について、毎日変化する時事問題、金融や経済に関するニュースや出来事などに興味・関心をもたせ、経済社会の動向に着目させるとともに、単に経済理論について理解させることに留まらず、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考察させるようにする。

このようなことから、商業における金融経済教育の学習のこれからの方向性や位置付けについて考察してみたい。金融や経済についての学習は、これまで様々な科目で実施されてきたが、

一つの視点として、主に会計分野の科目である「簿記」を中心とした会計として実施されてきたとの側面がある。取引の仕訳や帳簿の作成、財務諸表の作成や内容の読み方といった企業やビジネスの側からの視点が主であるとともに、学習した内容について、簿記会計に関する上級の資格取得が可能といったことが商業の強みであった。この強みをさらに発展させ、公民科や家庭科を中心に実施されてきた学習内容と横断的な関係を持ちながら、これからの商業では、商人や経済人という視点から、消費者、さらには実社会においてより良い暮らしを送ることができる生活者の視点が必要になってくるのではないかと考える。

金融経済に関する幅広い知識を持ち、生徒がお金のことを考え、さらには社会や経済を考え、そして自分の生き方を考えることが重要になってくると考える。

## 6 授業実践について

### (1) ICT機器を活用した授業展開について

高度情報化社会の進展は教育現場に変革をもたらしている。コンピュータやインターネットの急速な普及と学習活動への導入により、生徒の学習形態は大きく変容しつつある。特に、多くの授業などで様々な情報の手段、情報機器の活用により、その学習活動が多様化している。先ほども述べたように、この科目は各種メディア教材などを活用、特に新聞、放送、インターネットなどを活用し、日頃から経済に興味・関心をもたせ、経済社会の動向に着目させるとともに、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考えさせることが重要である。このような情報の手段や情報機器を活用した学習は、生徒の学習意欲を高めるとともに、教科の目標を達成するだけでなく、情報活用能力の実践力を育成するという点においてその役割は大きい。

しかし、学習活動において、確かに多くの情報に接する機会が増え、以前にも増して多くの情報を集めることができるようになったが、収集した情報を単に理解するだけで終わりがちな実践が多く見られる。そこで、この授業では、関連する用語や語句などの意味を調べたことや、世の中の多くの出来事と授業の学習内容との関連を各自が自分たちの言葉で分かりやすくまとめ作業や発表、意見交換などを行うことで、単に調べた情報を暗記するだけでなく自分の考えを整理してまとめ、表現する力をつけさせ、言語活動能力の充実に関して育成ができるのではないかと考えた。これは、課題や目標に照らしてその時に必要な情報を取捨選択し、様々な情報と比較させながら自分の言葉やイメージで再構築してまとめるという作業であり、情報活用能力や実践力、コミュニケーション能力の育成につながると考える。

この授業の展開方法は、主に教科書を使用した、座学中心となる授業展開が通常であり、教室での実施が一般的である科目となるが、この取組では、ICT機器の活用から得られる様々な学習効果のメリットを活かすため、パソコン教室の実施にこだわって実践した。まず、授業の導入や展開部分で、より生徒への理解を深めるためにインターネットを活用した。生徒にとってインターネットの利用は興味関心が大いにあり、知的好奇心や探究心を刺激し、生徒自らが探究活動を主体的に、創造的に取り組むことができる。教科書では説明が不足している難解な用語の調べ学習としての活用や、補足的資料として関連する語句などの情報収集の利用、学習している内容との関連を、現在の世の中の出来事と関係性を持たせての指導に利用した。また、様々な媒体からの情報の活用として、書画カメラを利用し新聞記事を提示し、経済や金融その他現在（いま）を知る多くの記事を利用し、学習している内容の理解を定着させるための活用や、学習した一つの内容が別の視点で社会との関連を持っていることなどの理解に活用した。

これらの活用で生徒にとって学習の広がり発展させ、現在（いま）を知るという学習意欲の喚起に繋がった。更に、プレゼンテーションソフトを利用した授業を実施したことで、教員は授業をより効率的に実施することができるようになり、その時間的余裕の活用として、一步踏み込んだ説明やその背景にあるものなどの説明が可能となり、机間指導などを併せて実施することにより生徒の理解を更に深めることが可能となった。生徒にとっては、学習している内容が手元のモニターに提示されることから、学習に参加する気運が高まり、学習内容に興味や関心を示し、モニターに集中しながら積極的にノートの整理を行い、思考や理解を深めることができ、知識の定着を図ることができたと考える。

## （２）外部団体を利用した教育資源の活用について

金融経済教育は、単なる知識や理解の習得のみに留まらず、授業で学習した内容を実生活や社会と関連させ、生活者としてより身近にとらえられるように考え、シミュレーションやロールプレイングなど、様々な実践的・体験的な学習を取り入れることや、課題解決的な学習として、意思決定におよぶ学習として深化させていくことがより効果的な学習につながると考える。そこで生徒が、学校外部の様々な講師から、専門的知識・技術力に学ぶ機会を得ることは、新しい見方や考え方を知り、学びを大きく広げ、学ぶことの意味や楽しさを実感させる学習効果が大きいと考えることから、いくつかの関連する外部団体を利用するなど学校外の教育資源の活用に取り組んだ。

### ア 一般社団法人全国銀行協会との連携について

平成 26 年 2 月 17 日付け 教指第 1699 号「金融経済教育」、「消費者教育」に関する教材を活用した授業実践校募集について（依頼）において一般社団法人全国銀行協会より授業支援の募集があり、活用することにした。具体的には年間 3 回、学期に 1 回実施することにし、内容としては各種教材の提供（大好きなアーティストから考える あなたと銀行のかかわり、ライフステージで学ぶ銀行 やさしい銀行のはなし、これからの暮らしに役立つ ローン&クレジットの ABC、生活設計・マネープランゲーム）、銀行見学や講師派遣、専門的アドバイスや資料提供などのサポートである。

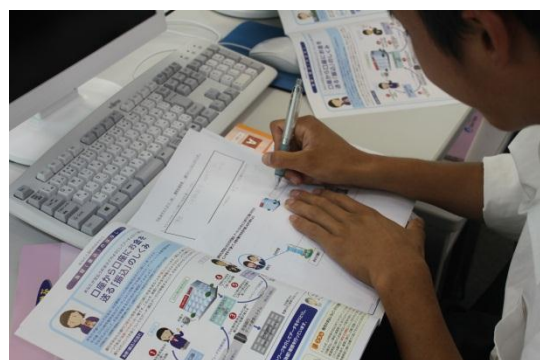
今回の取組では、この中より教材の提供と講師派遣、銀行見学を実施することとした。講師派遣では、金融の仕組み、銀行（金融機関）の役割など、生徒が当事者意識を持ちにくい金融について、身近なストーリーを展開することで、自分たちの生活や社会とのかかわりを明確にし、興味関心を高めることができる。例えば、「大好きなアーティストから考える あなたと銀行のかかわり」では好きなアーティストの DVD を購入するお金の流れから、為替・預金・貸出といった銀行のはたらきについて学び、DVD 制作販売会社の資金調達から金融の仕組みについて学ぶことができる。さらに、思考型の授業展開として、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイングの手法を取り入れた授業で活用するワークシートが用意されている。また、「ライフステージで学ぶ銀行 やさしい銀行のはなし」では高校生から老後までの 5 つのライフステージ毎にテーマを設定して、わかりやすく解説されている。また、ライフプラン作りでは、将来の仕事と収入、結婚費用、子どもの教育費用、住宅購入など、具体的な資金計画に取り組むことで、将来の人生について考える機会となっている。さらに、「生活設計・マネープランゲーム」では、人生におけるライフイベントとそれ



にかかる費用を知り、計画性を持って生活していく必要があることを体感することができるカードゲームとなっている。お小遣いの範囲でお金を使う生徒たちにとって、生涯を見通した計画を立てるのは難しいことであるが、カードゲームで人生を疑似体験することで生涯を見通す視点を明確にし、学習への興味・関心を高めることができる。

6月27日（金）4限に実施した学習内容は、年間3回の授業の基本的な導入部分として金融の仕組みと働き、銀行とは、その機能と役割についてであった。生徒は普段身近にある銀行についてより詳しく学習することができた。

また、授業で学んだことをベースとして7月10日（木）千葉銀行東金支店への銀行見学を実施した。教室で学習した内容について、実際に生徒それぞれが自分の目で確認し、現場において学習した内容の話を直接、銀行員の方より聞くことができたこと、また、実際の現金に触れることができたことなど、銀行の業務内容や社会におけるその役割について更に理解を深める機会とした。



銀行の機能・役割について（26. 6. 27 実施）



千葉銀行東金支店見学会（26. 7. 10 実施）

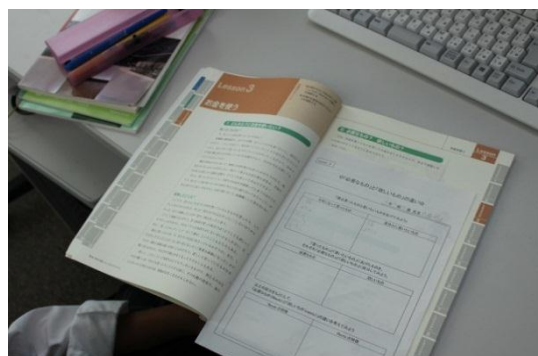
#### イ NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ（FP）協会との連携について

パーソナルファイナンスとは、個人のファイナンスのことである。個人の生き方が多様化する中、一人ひとりの生き方に合ったお金の知識や活用方法を身に付け、家計の適切な管理や合理的な生活設計をすることが必要不可欠となっている。FP協会ではパーソナルファイナンス教育を通じて個人が人生の夢の実現をお金の面から考えていけるよう、さまざまな活動に取り組んでいる。具体的には、パーソナルファイナンス教育インストラクター制度である。パーソナルファイナンス教育に関する知識・経験を持つFP（ファイナンシャル・プランナー）による出張授業を実施している。独自の金融経済テキスト「10代から学ぶパーソナルファイナンス」を使用し、学習活動を実践的に行う。パーソナルファイナンス教育普及のため、高校生向けの

テキストおよび指導者向けのマニュアルを提供している。マニュアルには、学習イメージを理解しやすいよう、授業の導入に使える映像教材（DVD）も添付されている。当団体についても金融経済教育と関連性を持たせ活用させていただくことにした。

この取組では年間3回、学期に1回の外部講師による講演を導入の学習と基礎的・基本的学習、応用的学習、まとめ的学習として、継続的・段階的に実施することにした。学習する内容については、補助教材として、お金に関する専門的な教材を提供していただき、内容や、使いやすさなど、生徒の理解度を調査した。

6月20日（金）4限に実施した学習内容は、年間3回の授業の基本的部分の導入としてライフプランの考え方を理解し、上手なお金の使い方を身に付ける2つの学習内容で実施した。生徒は夏季休業を直前に控えていることもあることから、休業中におけるお金の使い方について考え、学習する機会にしたいと考えこの時期に設定した。パーソナルファイナンスの重要性、お金の「使う」、「稼ぐ」、「貯める・増やす」、「借りる」の4場面のうち、活かしたお金の使い方ができるよう優先順位を付け考えさせ、また、「必要なもの」、「欲しいもの」の違いを理解し、将来への備えやライフプランの大切さをワークシートに記入しながら学習させた。



パーソナルファイナンスについて (26. 6. 20 実施)

#### ウ 読売新聞社との連携「学びサポーター」について

読売新聞社では、記者が学校で新聞の面白さや活用の仕方を伝える「出前授業」を実施している。社会の動きを日々追いかけている記者が、学校に出向き、社会や政治の動き・環境・福祉・スポーツ・取材の仕方や記事の書き、新聞の読み方、作り方などについて講話を実施することができる。面白い話を聞き出すコツや読み手に伝わる表現方法を、記者をお手本にして楽しく学ぶことができる。生徒たちの言語能力・コミュニケーション能力の向上に焦点を当て、3種類各2時間の基本プログラムが用意されている。

社会部、生活部、地方部などで経験を積んだ「学事支援部」の記者と、教師を目指す企業教育研究会の学生スタッフが、学校に出向きチーム・ティーチングで授業を実施する。国語、総合学習、新聞作り、調べ学習など、様々に活用することができる。今回の取組では、この連携をきっかけに新聞に興味を持つこと、特に経済面の読み方について学習する機会とし、生徒各自が新聞の購読に関して習慣化されることを期待する。また、異なる地域で発行された実際の新聞を、複数読み比べをすることができ、世の中の様々な出来事取材し、記事になるまでの過程や、記者の方の七つ道具を見せていただくなど、生徒にとっては有意義な時間になった。



学びサポーター（26. 9. 29 実施）

### （3）生徒の授業に関するアンケート、感想の実施

各実践とも生徒の反応は良好であり、どの実践からも、それぞれの観点で一定の学習効果は得られたものと思う。実施した内容ごとに、生徒の授業に関するアンケート結果や感想の一部を紹介する。

#### ア ICT機器を活用した授業展開について

生徒は学習内容に関して興味・関心を大いに高めるとともに、思考や理解を深めることができ、理論的な思考能力、金融経済知識の定着を図ることができた。また、生徒はパソコン室の授業と聞くだけで、教室での授業とは違った高揚感を示している印象を受ける。いわゆる受動的になってしまう教室での授業とは対照的で、能動的、主体的に参加する姿勢からも効果的であると考える。並行して情報モラルや適切な情報手段の活用方法など、情報活用能力についても学習することができる点も大きいと考える。今回は、プレゼンテーションソフト、ブラウザ、書画カメラなど一部の情報機器の利用に限定したのになってしまったが、今後は様々な授業、また行事などにおいて、多くの情報機器の利用を積極的に実践していきたい。

- ・プレゼンテーションソフトを使用し説明を聞くことができるので、とても分かりやすいと思います。
- ・様々なことを学習する中で経済の事に興味を持つことができました。
- ・これまではビジネスの基本について学習してきたので、今後は更に詳しく、自分の将来に関連させて学習していきたいと思います。
- ・これまで学習してきたマーケティングと違い、経済とは主にお金の流れであり、私たちの身近なことであることが分かりました。
- ・インターネットを使用し、経済の事柄について調べていると、授業が楽しく、効果的だと思います。
- ・世の中の社会の様々な仕組みや、社会の動きが私たちの生活と大きく関連していることが分かりました。

#### イ 外部団体を利用した教育資源の活用について

外部の講師による専門的な授業には、普段の授業とは違った緊張感を持つと同時に生徒達は興味や関心を持ち、どんな授業になり、どんな話を聴くことができるのかと真剣な眼差しで取り組んでいた姿が印象的であった。この実践も専門的、実務的な知識・思考能力や、学校外の一般社会人の方との接点を持つことで、コミュニケーション能力なども身に付ける事が可能であ

り、一定の学習効果は達成できたものと思う。使用教材に関しても、教科書とは異なった視点から学習できる構成や内容で、図や資料が多く取り入れられており、カラーであり構成なども大変見やすく、分かりやすいものとなっており、生徒にとっては授業の受講後の様々な場面において大いに活用できるのではないかと思う。

(ア) 銀行の機能・役割について (26. 6. 27 実施)

- ・お金はいろいろな所に流通することが分かりました。私たちの知らないことを学ぶことができました。
- ・私たちがDVDを購入することで、お金がどのように流通するのか学ぶことができました。
- ・銀行の仕組みを詳しく学ぶことができ、とても身近な存在になりました。
- ・銀行の業務内容や種類について学ぶことができました。私たちが銀行を利用すると、どのようにお金が流通していくのかが詳しく理解することができました。銀行の営業時間についても、窓口が閉まった後の業務について学ぶことができました。
- ・コンビニエンスストアのお茶が製品になるまでにたくさんの仕組みがあり、お金が流通していることが分かりました。
- ・銀行のお金は、自分たちが預金したお金が、必要としている人に流通していることが分かりました。
- ・インターネットショッピングの仕組みが理解できました。

(イ) 千葉銀行東金支店見学会 (26. 7. 10 実施)

- ・銀行の講習会で学んだ内容を、実際に見学することで確認することができました。
- ・普段見学することができない場所を見せていただき、新しい発見がありました。
- ・実際に本物のお札を触らせていただき、とても現実味がありました。
- ・銀行の仕事の内容について学ぶことができました。

(ウ) パーソナルファイナンスについて (26. 6. 20 実施)

- ・お金の使い方について、自分が欲しいものと必要なものに分けて考えることができました。何にどのくらいお金を使うのかを考えてみると難しいことが分かりました。自分が今持っているお金を計画的にどのように使っていくべきか常に考えるようになりました。
- ・教科書とは違った、教材がカラーで分かりやすく良かったです。
- ・お金の動きや仕組みを学習することができ、経済について興味を持つことができました。

(エ) 学びサポーター (26. 9. 29 実施)

- ・新聞の重要性が再確認できました。高校生として新聞を読みたいと思います。
- ・新聞記者の方の御苦勞が分かりました。
- ・ビジネス経済を勉強しているので、これからは経済面を読みたいと思います。
- ・新聞は世の中の様々な情報や、役に立つ情報、これからの情報などを詳しく、見やすく、容易に理解できるよう集約して書かれていることが分かりました。
- ・新聞はあまり読まなかったが、今回の講演をきっかけに、今後は少しでも興味を持って読んでみたいと思います。
- ・1枚の新聞を作成するために、様々な人たちがかわり、多くの時間がかかることが分か

りました。

- ・授業で詳しく教えていただいたので、自宅の新聞のテレビ欄以外のページも詳しく読むようになりました。
- ・伝えたい情報の大きさで、使われているスペースが違うことを教えていただきました。
- ・新聞は内容が分かりやすく整理されていて、思っているほど難しくないことに気付くことができ、新聞を読むことの大切さを学ぶことができました。
- ・インターネットと違い、新聞は自分の好きな時に、好きなように読むことができるので便利だと思いました。
- ・この講演で、様々なことを学び、知ることができ、得したと思いました。
- ・新聞を作成する苦労や大変さ、新聞の読み方、目の通し方、仕組みなどを学ぶことができ、関心が高まりました。

また、これら取組の課題や留意点として、①実施までの準備の段階において、日程の調整、学習内容の確認などを複数回にわたり担当者と打ち合わせをしたこと、②生徒への事前の説明や資料を手配し、授業実施前に配布し予習的学習の指示を確実に言い、当日の学習効果が更に高まるよう準備したこと、③当日の講師対応に、実施する授業の前後の時間も含め時間が割かれてしまったこと、④複数回の実施により授業時間が削られ、本来の授業内容の進度の調整が必要だったことなどいくつか挙げられる。しかし、それ以上に生徒への学習効果は確実に得ることができ、特に実学である商業の学習にはこれらの実践が大いに必要なのではないかと考える。多くの制約や条件などがあるが、今後も様々な科目、行事などで実践していきたいと考える。

更に、生徒の中には、全国商業高等学校協会主催商業経済検定「ビジネス経済A」の取得に積極的に挑戦する者もおり、国家資格である3級ファイナンシャル・プランニング技能検定(3級FP技能検定)の資格取得を目指したいという声も聞くことができ、学習内容を通して、金融や経済に関して興味・関心を持ってくれたものと思う。今後も継続的に、より深く、広く学習を進めていってもらいたい。更には学習した知識や技能は、日々の暮らしに役立つことが多く発見でき、今回の研究の目的であった、生徒の学習意欲や学習効果を高められる授業展開などの考察に関して、一定の研究成果が得られたのではないかと考える。

## 7 おわりに

今回、科目「ビジネス経済」の効果的な指導方法について、様々な指導方法、外部教育資源の活用、諸団体のサポートなど、実践的な体験型授業を取り入れた金融経済教育を中心として研究を進めてきた。私たちの生活はモノやサービスを買う、目的を持ってお金を貯めたり借りたりするなど、多くの形で常にお金にかかわっている。このお金に関する正しく、適切な判断力などが金融リテラシーであり、このことを学ぶことができる学習が金融経済教育である。金融リテラシーとは、つまりお金との正しい付き合い方であり、生活スキルをより高める事ができる、まさに「生きる力」になるのではないか。長い人生においてそれぞれのライフステージ、年齢に応じて身に付けるべき金融リテラシーは各学校段階、社会人や高齢者のそれぞれの各段階で、学習していかなければならない。今回は高等学校段階の、一つの授業でほんの僅かな部分について学習したに過ぎない。生徒達にはこれからも、金融に関する様々な情報などからより効果的、効率的に

正しい知識の習得や適切な判断力，よりよく問題を解決する資質や能力の学習を継続してもらいたい。まさに生涯学習として，商業高等学校出身の金融経済についてしっかり考えることができ，現在(いま)を知る賢い消費者・生活者になってもらいたいと思う。

また，商業教育の楽しさや必要性などを現実のビジネスと関連させ，生徒達に対して魅力的，創造的な学習活動へと発展させ，伝えていくかが今後も更に大切になってくる。私自身も，生徒の学習に対する関心や意欲を高め，課題解決能力や思考判断能力などが備わる授業実践について効果的な授業方法・授業展開について研究・研鑽を続けていきたいと思う。

最後に，本研究に際し，千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事 ○○○○先生，本校校長 ○○○○先生，教科指導員 ○○○○先生，教科研究員の先生方，その他協力をいただいた多くの先生方からの心温まるご指導・ご助言を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

#### 主な参考文献

- 「高等学校学習指導要領」文部科学省
- 「高等学校学習指導要領解説 商業編」文部科学省
- 「ビジネス経済」実教出版
- 「ビジネス経済教授用指導書」実教出版

#### 主なURL

- 文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
- 千葉県教育委員会 <http://www.pref.chiba.lg.jp/index.html>
- 公益財団法人全国商業高等学校協会 <http://www.zensho.or.jp/puf/index.html>
- 金融広報中央委員会 <http://www.shiruporuto.jp/>
- 一般社団法人全国銀行協会 <http://www.zenginkyo.or.jp/>
- NPO法人日本FP協会 <https://www.jafp.or.jp/>
- 読売新聞社 <http://info.yomiuri.co.jp/>